

# 辰巳会 供養塔除幕式

てそうして永久に若い辰巳会であつてほしいと思うわけでございます。

もう一つお願いしたい事は万国博であります。これはアジアで始めてございましてしかも大阪が会場になつております。これは一つこの機会に何もかも東京が中心の様になつておる御承知の様な事で関西が非常に地盤が沈下しておると云う事で、実は一年程前に皇太子殿下を早く名誉総裁にまつりあげろという事を私あちこちで云つたんです。それがまあようやくこの間実現しまして私も非常によくこんでいるわけでございます。ところがああいう名誉総裁というものは大休前の年に推戴すべしと云う事で二年前に実現したので非常に喜んでおるわけでございます。

これによって一つ、東京の方もかなりみえてる様であります。名古屋以西が西日本でございまして、日本の地盤沈下をこの際万博によってもり上げて大いに東の力を西へもつて来るとまあ私の夢の一つでございます。しかしそれはいかない面もございまして、しかしやはりその大衆がそう云う気持ちになればジョンソンも

後をむいて行く様な時代にだんだんなつていく様なわけでございます。やはり国民の与論をそういうところへ持って行きたいと、それには万博を大いに皆様と共にけしにかけていものにする事でありまして直接、間接に一つ皆様の御援助を……私が万博の會長みたいなことを云つておりますがまあよろしくお願い致します。

## 菅宗信師法話

(神戸篠原祥竜寺住職)

唯今御紹介にあずかりました祥竜寺の留守番役で御座居ます。私決して住職と云う名前では御座居ません。丁度留守番に参りまして満二十五年になります。今日この席で隠れた大きな底力のある諸氏の御健闘を軒の下に小さくかかんで人に見てもらえない花のありかと云うものを、再び発見させて戴いた様な嬉しい気が致します。陰の力と云うものがどれほど大きいものであるかということ、これは皆様の真の和合の賜であります。しかも晴天に恵まれてきてこの会あるごとに雨の降った事はありません。

す。終りにのぞみまして皆様の御健康を、昨日も新入社員の歓迎会で、重役連中は健康を大事にせよと云うがなあーに若い者に健康に気をつけろなんておかし、健康増進と云えと若いからハッパをかけられたんですがお互に皆若いのですからますます健康増進に尽力されん事をお願い致します。

天これを与し給うという事がありますが、その言葉通り貴方がたが小さく縁の下でちぢこまって、蓄えてきた大きな力、足跡は世界の何処にも見出せない美点であると思ひます。どうかその花をその姿を見て戴く方が、日本だけでなく世界の人人にその眼があつて戴きたいと思うって過言でないと思つたのであります。嬉し涙のこもってくる様な今日唯今の席で、先代の鈴木よね刀自にも時々小さい時には碧層軒の供をしてよくなせて戴きました。

## カナタツ冥利ここに至る

(供養塔建立)

昭和四十三年四月二日、供養塔は永井幸太郎さんの除幕でその端麗莊重な全貌を麗かな陽光の下に現わした。参列者二百五十名の拍手は山内にこだまして暫し鳴りも止まず、直ぐ側のお家さんの胸像墓碑、金子、柳田両翁頌徳碑と共に、ここ広国山祥竜寺境内の一角はカナタツ聖域となつた。筆者はここに供養塔建立が立案され今日その完成を見るに至つた迄の過去一年有半を顧み、左にその経過を述べ会員諸氏への御報告と致す。

昭和四十二年は鈴木商店が解散して丁度四十年に当るので辰巳会は記念式典の外に何か永く世に残るものとかねがね関係者間で考案をめぐらしていたが、物故者慰霊塔建立がその第一案となつた。そこで同年一月二十六日大阪ロイヤルホテルで開催された新年会(出席者百余名)の席上、小野幹事からこのことを発表した所、万雷の拍手を以て御賛成を得た。小野幹事は「この供養塔はカナタツ創業以来今日迄、明治、大正、昭和三代に亘る幾百千の有名無名の物故店員全員を合祀しその霊を

ておりましたが、偶然留守居役として祥竜寺の住職いたしましたのが、昭和十八年でございまして。二十五年の間何とか陰の花を美しく世上に映かしたいと云う気持ちのみでやってまいりました。私のやる事はこれからでありまして今日の供養の物故者の方々に對しても、毎日回向たびに御一緒に御供養申し上げ永代貴方がたの御健康と会社の繁栄、それからどうも今日は皆さんにどなりつける様な元氣もありませんが、生きて生きて生きぬくという事をどつぱらの中に再び若さを取りもどしていただいて年々変る事なく年々数を数えて行く顔を見合してほほえみとおお釈迦さんの大微笑を築きあげていただきたいと思つたのであります。

今後祥竜寺におきましても若い人達いろんな人達がまいります。唯一人々々が貴方がたと同様な権利とそうして同様な力を持つておる、又その様に仕込んで行きたいと思つております。多大の御加護を願つてます。御法を守つて行きたいと念願しておる次第であります。どうか充分心身共に堅固に又来年これ以上にお集り願ひたいと思ひます。尊聴を上げましたが謹んで御挨拶申し上げます。

慰めると同時に今日猶残存する我々の後生のためにもなりますから建立資金は正、準会員を問わず出来る大多數会員より淨財の寄進を仰ぎ度くこの主旨より一口千円の募金を考へて居る。旨述べられた所、即座に十、二十、三十口の寄進を申出られた方があつたのには感激した。

ついで四月五日四十周年記念法要が祥竜寺で大盤若経転読奉誦と云う珍らしい行事で営まれた後、引続き催された相楽園での宴席で、高畑會長は左の如き趣旨の挨拶をされた。

「分散離別してから実に四十年の年月が経過した。当時二十才、三十才の青年は今日六十才、七十才を越え四十年の長い道の道をよく歩み来て今日此所に一堂に会し共に記念の式典を挙げ得たのは真に感慨無量である。その間多數の物故者を数えたがそれ等の人々の冥福を心から祈念すると同時に残存諸君には何卒一層健康に留意せられんことを衷心お願致します。」會長は四十周年の意義をこのように述べられたが、これで供養塔建立が記念事業として誠に有意義なことを再確認した。

さていよいよ計画の具体化であるが、先づ塔建立には二百余万円の資金を要するが之の募金は一人一口千円では正準会員全員が応募下さつても必要額の三分の一にも足らないので、一般募金に先立ち有志会員より特別の御援助を願うこと、即ち賛助会員とでも云う制度を設けること、之が為めには幹事が手分けして会員の個別訪問をなし大体の予想を立てること等々が考慮され、東京や中部支部とも慎重審議を重ねたがいろいろ難点もあるので容易に実行に踏み切れなかつた。然し荏苒日を過ぎよ

り、思い切つて全会員一様に募金依頼状を差出すこととし之を断行した所、意外にも打てば響く如く会員諸氏は続々と応募御送金下され、特に今迄大会にも例会にも御出席のなかつた地方在住の会員も多數応募下され旬日を出でずして予想を越える金額に達した。尚又、今回の計画に賛意を表された法人(関係会社)よりも多額の御援助を賜つたことは誠に感謝に堪えない。左にその集計を記すると、

供養塔建立資金一口千円

個人之部

一〇〇口(十万円) 二人

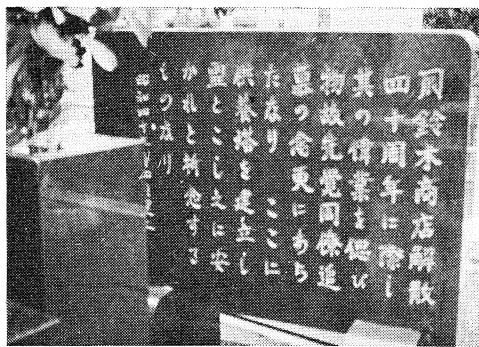


供養塔台座の取付け作業と(右)永井幸太郎氏を囲んで供養式



# 辰巳会供養塔除幕式

五〇口(五万円)	四人
三〇〇(三万円)	八人
二二〇〇(二万二千元)	一人
二〇〇〇(二万円)	一人
一〇〇〇(一万円)	五人
六〇〇(六千元)	一人
五〇〇(五千元)	六人
三〇〇(三千元)	九人
二〇〇(二千元)	一人
一口(千円)	二人
計 二、四四二口	五四六人
金二、四四二、〇〇〇円	
法人之部	
二十五社	金二、四五〇、〇〇〇円
総計	金四、八九二、〇〇〇円



供養塔を建てる言葉

# 武氏に委嘱した。

塔は高さ六尺、材石は東京日商資材部輸入の南米アンデス山から切出される黒耀石「アンデス・ブラック」加工組立も日商指定の京の石工、久保田家石材と池西石材店である。之には東京支部齊藤幹事に負う所大である。尚又塔の台地造成は太陽鋳工技師中門長四郎氏を煩わした。茲に記して両氏の労に対し厚く謝意を表す。

塔は台石正面に刻まれた「よね星」マーク米以外は全く無地である。これはこの塔が宗派無関係を示すもので仏教以外の宗教でも差支えない。台石の下には柳田幹事の考想により曾ての鈴木商店本店並に事業所、工場跡より収集された一握りづつの砂が収められ物故者慰霊の意義を深くした。

## 碑文に就て

塔の右手に塔と同じ黒耀石の板石があり、それには上の如き碑文が彫られてある。

板石裏面には  
高畑誠一書

碑文は永久に残るものなればその

された所、早速関係会社なみの寄附

を快諾された。茲に記して謝意を表す。(寄進者芳名は本誌⑩頁で報告した)

上記の入金に対し建立に要した支出は

敷地購入(祥竜寺境内三坪)	四五〇、〇〇〇円
台座造成	一七〇、〇〇〇円
塔、高さ六尺石造五輪	
附属物件一式	
一、四四七、〇〇〇円	
永代経料其他一五〇、〇〇〇円	
計	金二、二一七、〇〇〇円

他に除幕式費用、記念品代を含め約八十万円の支出があった。

## 塔のこと

最初慰霊碑とするか供養塔とするか問題となった。碑だと自然石とかステンレス鋼なども考えられた。変わった形状の鋼板に物故者全員の氏名を彫り込むという妙案も提出されたが、結局永く後世に残す為め、オーソドックスな供養塔即ち石造五輪が決定され、柳田幹事の考証により、五輪の形式は重厚の中に美しい線の出ている鎌倉後期に則ることとし、その設計を神戸市史編纂室の川辺賢

選定には幹事一同何回となく慎重審議、修正を加えた。東京支部よりも二、三の案文を示されたが何分にも縦横二尺余りの板石に見やすい大きな文字を刻まなければならぬので字数は六、七十字に限定され且又字面の制限もあるので之等を考慮し上記の碑文を選定し、会長の御同意御揮毫を得た。

除幕式当日菅宗信禪師により読上げられた物故者名簿(過去帳)には六百七十七名の氏名が記載されていた。祭祀者の数が年と共に増加するのは致仕方ない。尚又この六七七人以外に多数の無名人の供養も祈願されている。例えば「たつみ」八号所載の宇治川夜話に登場する裏方さん連中の如きも正規の店員ではなかったろうが、この塔に合祀されることに依ってカネタツ冥加に浴しその幸福が感謝されているのは云うまでもない。

昨今明治百年の行事がいろいろ行われているが、先代鈴木岩治郎氏が「辰巳会」を創められてから今日に至る期間は明治百年の大部分をカバーしている。この一世紀こそ正に人類史上未曾有の大波瀾の世紀と云う

現在会員名簿記載の会員数は正会員約六五〇、準会員約五〇〇、合計一、一五〇名あれど準会員で連絡不能の方が三〇〇名以上あるので実質会員数は約八五〇名である。大会通知会報「たつみ」名簿等はこの八五〇名の方に洩れなく発送しているが、回答を要する出状に対しても全然返事をされない方も相当あるので、之等を考慮に入れると今回の応募者五四六人は会員の八〇%が、ただ一回ただ一片の依頼状で献金を申出られたこととなる。之は将に特筆す可きことで今更乍ら辰巳会が尋常一様の会にあらざることを示し、カネタツ冥加は尽きずの感を深くしたのは豈筆者のみならむやである。

尚法人二十五社の内、東洋高圧と日本油脂の二社は現在関係会社ではないが高石淳氏から今回の計画を話

辰巳会

可く、即ち航空機と原子力が出現し前後二度の世界大戦は日本を戦勝国より戦敗国へと変貌させ、世界は自由民主と社会共産の二陣営に分かれた鈴木コンツェルンとして世界市場に雄飛した我等の辰巳会も直接間接この大変動の影響を受け昭和二年四月遂に消滅の悲運に陥った。然しその結果分散独立した各種事業は其後

敗戦の苦難をもよく克服し今日隆々繁栄する企業に発展し、世界的水準の工業会社、貿易商社ともなり国家社会に多大の貢献をなしつつある。辰巳会員で叙勲の榮に浴された方も既に数十名にのぼると思うが、この供養塔に合祀された幾百千の先輩同僚！それは大カネタツを築いた礎石とも云う可き人々の霊に対し恭しくこのことを奉告し、その霊を慰めんとするものでもある。

祥竜寺に於ける除幕式後、全員は四台のバスに分乗大会第二会場たるオリエンタルホテルの懇親会に出席した。席上西川東京支部長、小野幹事其他の諸君より交々挨拶や所感が述べられ、橋本幹事よりは会長(欠席)の口上が伝えられ、例の於く盛會を極めた。

(小川幹事稿)

# 開会の挨拶

本日は公私御多用のところを又御遠方の所をわざわざかくも多数の会員各位並びに御遺族の方々の御来臨を仰ぎまして、唯今供養塔の除幕式を厳粛に行なわれました事は誠に感謝感激にたえない所でございます。これと申しますのも辰巳会の四柱、すなわち日商、神鋼、帝人、太陽の四社の多大な御支援と会員各位並びに御遺族の方々の貴重な御浄財の寄贈によりまして、この会が盛大になったわけでありましてここに幹事一同にかわりまして心から厚く御礼を申し上げます。

さて申し上げるまでもなく、鈴木商店が明治、大正、昭和を通じまして我が経済界に偉大なる足跡を残してその残された事業が今尚隆々として発展しつつあると云う事は金子さん柳田さんの様な大先輩の不屈の御精神、超人的の御努力の賜だと思ふ次第であります。しかしそれと同時に、その傘下に集まられた今はない多くの先輩、同僚達のかくれたる御努力もあつた力あつた事と存する次第であります。これらの方々の霊をなぐさめ御冥福を祈り、さらに

於 オリエンタルホテル

小野幹事

先輩の御意志を次の時代に継承する事は誠に意義のあることと信じましてこの度物故者供養塔を建立した次第で御座居ます。我々の如きも又やがてはなき数にいたるときにその名前をこの供養塔のもとにつらねて後生の冥福を祈願せらるという次第でありますから、どうか会員各位におかれまして一層御健康に留意せられまして心安らかに余生を楽しく過し九十才百才に至るまでどうぞその天寿を全うされます様に心から念願致します。つきましてはこの今回の供養塔慰霊祭というものを今後継続していきたいと思ひますので、毎年四月二日これを記念としあるいは命日と致しまして慰霊祭を挙げる心算で御座居ます。どうか皆様も私共の微衷を御賢察下さいまして其の時は万障御繰り合わせ来年も明来年も年々再々御参列給わらん事を今から御願ひ致しまして甚だ簡単なが御礼を兼ねまして開会の辞と致します。

東京支部新幹事御紹介

大幡久一氏を新幹事としてお迎えすることに決まりました。東京支部の為め誠に慶賀にたえません。

# 辰巳会 供養塔 除幕式

## 除幕式に思う

春光や供養塔影濃し除幕の日  
読経や摩耶がごだまし風光る  
亡き友の想出語らん鳥雲に

(書橋)

此日の辰巳会供養塔の除幕式に於て供養塔のテープは長老のお一人永井幸太郎さんの手で静かに剪り落された。今年には気候の幾分おくれた関係で境内桜一輪も咲いて居らず、やっと阪急沿線にぼつぼつほころびる程度だった。振りかえって昨年の辰巳四十周年記念全国大会は四月五日に催された。其の日も快晴に恵まれた。物故者の慰霊祭も同じ祥竜寺の本堂で施行された。式後一同貸切バ

福田 秀吉

供養塔  
解散 悲報 刳肺 肝  
社友 袂 別 四十年  
遺業 隆々 護名 跡  
供養塔 前 偲 故人

ス数台に分乗し中山手通りの相楽園の宴会場へ繰出した。沿線到る所万朶の桜で誠に素晴しかった。熊内住宅街の桜、新生田川畔の桜、北野のオリビヤ(鈴木商店の寄宿舎の一角にあった所)辺の桜などつづく桜懐しく仰ぎ観てやがて相楽園に到着、流石は小寺邸跡のこととて実に豪壮なもの。饗宴、アトラクション、懇談、庭園観賞(特に元居留地にあつた「明治の異人館など」想出深い)にと楽しい時間を過ごすことが出来た。一句浮んだ瞬間パツタリと蜘蛛翁(永井幸太郎氏の俳号)にお会いした。「駄句を一つ御披露します」「四十年経し今桜万朶かな 菅橋」。翁が「君それ仲々いいよ」とお褒めのお言葉を頂いた。想えば昭和二年四月二日鈴木商店並に其の傘下の各社の一同がちりちりばらばらになつて以来あらゆる辛苦艱難の数々を嘗め尽した揚句星霜四十年がまたたく内に流れ過ぎた。鈴木の大木な幹や大きな枝は太陽鋳工に、神戸製鋼に帝人に、日商等々にと立派にその伝統を伝え、成長し更にそれに無数の

孫枝を盛りあげて今日の盛況一朶の桜と相成った。思えば一方先輩同僚後輩の鬼籍に入られた方々も多い。誠に感慨無量と云うべきである。後日四、五人の友人より処望されるままに此の駄句を色紙に書きな

ぐって贈った。その色紙をふとしたことから柳田義一さんに見付かりそのまま写真にして昨年の「たつみ」に掲載して頂いたので全く汗顔の至りであった。(今村 頼吉記)

## 鈴木よね子刀自と 神戸市立女子商業学校

(現在神港高等学校に合流)

本校創立について鈴木商店よねさんが五年間にわたり二万円の寄附金を申し出られたので設立が決定せられ、毎年四千円と生徒の授業料とで経営維持することを建て前として、大正六年四月九日、文部省の設立認可を得て開校された。開校後日も浅い五月五日校章を制定し、実費二〇銭で之を配布し着用させた。校章は満月を象つたもので、多大の後援を与えられたよね子刀自の誕生日が十月十五日の月明の夜であったことに因んだということである。

より鈴木よね氏寄附金が年額四千五百円に増額されている。又同年九月一日便所一棟が寄附(四五九円)され大正十年度で寄附は終了したがその年二月二十七日校舍新築予算が市会を通過している。

よね子刀自はまた大正七年グラウンドピアノを寄贈され、神戸幼稚園にあづけて音楽の時間を同幼稚園で行なった。大正八年四月一日、本年度

卒業生の採用についても自己の店や知り合いの会社にも働きかけて努力されたようで、第一回卒業生中七名が就職している。しかもその中には卒業式の立役者である答辞を読んだ生徒代表の姿もあった。創立十周年記念式典では本校創立功労者として、謝辞が送られた。その一節を見ると「夙に女子商業教育の必要を認められ、資を出捐して本校の創立を賛

### 鈴木邸訪問記念

#### 学芸会プログラム

神戸女子商業学校校友会

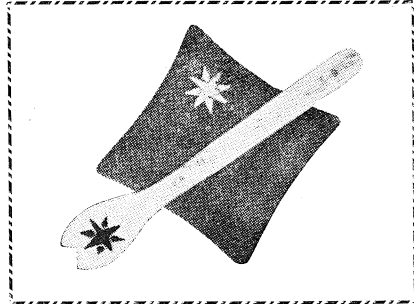
- 一、合唱 愛国(本科一年二組) 二名出演
  - 二、ダンスメイボール(本科一年二組) 三四名出演
  - 三、朗吟 村の細道(本科二年一組) 一名(姉)大角綾子(弟)長谷川幸子他九名
  - 四、講話 綿(専修科) 五名
  - 五、競技 記帳と手紙(本科二年二組) 二〇名
  - 六、舞踏 ツバメ(本科一年一組) 一九名
  - 七、所作 花筐(本科一年二組) 一三名
  - 八、談話 西洋雑話(本科二年二組) 四名  
レモンド千代子、今尾ひで子、森寿子  
内山芳子
  - 九、所作 三人片輪(専修科) 四名  
三木ひろの、森本けい、林千代、松田キヨ
  - 一〇、合唱(二部)花(本科二年二組) 三〇名
  - 一一、所作 笑の棒(本科二年二組) 一三名
  - 一二、箏曲 千鳥(本科一年一組) 五名
  - 一三、ダンス・クワドリール(本科二年一組) 三四名
  - 一四、合唱 校歌(生徒一同)
- 裏面には説明や歌詞が印刷されており、主なものを拾って見よう。
- ①百合(純潔を意味す) 我國輸出花の首位をしむる事にちなみて対話
  - ②撫子

### 明治天皇御製

はらはら思はぬ方に傾ぶかん

- ① つゆおきあまる撫子の花
- ② 牡丹(富貴にして華麗を意味す) 落尽残紅始吐芳 佳名喚作百花王 競誇天下無雙艶 独占人間第一香
- ③ 薔薇(美を意味す) 花咲き初めし折にこそ 薔薇の色は極みなれ 恐れ雲の絶間より もれて希望は輝ける
- ④ 重(謙讓真面目を意味す) あなうるわしき花 愛らしき花 斯る寂しきあたりに 汝ひとり住はんは いと惜しき事なり 広き世界の国々に 行きて人々の心に高き思想と 潔き愛とをつたえよ 美しき汝を見ん人 限りなく悦ばんに あなうるわしき花 あな愛らしき花
- ⑤ 一〇、合唱

- ① やさしき花よ やよ花よ 自然の母のみ乳房に きよく静かにほほ笑みつ 人の趣味よ尚かれと



よね刀自が開校式当日、全新生に贈られたよねマーク入りのへらと糸巻

### 沢村亮一氏の書

1. コロンブスの卵
2. ニュートンの懐中時計
3. ワインスベルヒの落城
4. フリードリッヒ大王と兵士との問答

宗道 祥神  
早起未更衣 静坐一炷香  
既着衣帯 必謹神佛  
眠不達時 食不妄飽  
接客如獨處 坐立如侍客  
尋常不為言 言則必行  
跡微勿讓 當事再思

勿妄想過云 遠慮將來  
負丈夫之氣 抱小兒之心  
就夜如晝 雖禱如眠徒  
甲辰臘八之日